



SCB

## ニュース&amp;トピックス

No.2024-66

(2024. 8. 19)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

研究員 西 俊樹

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

## データで読み解くこれからの信用金庫経営 (13) 経費率

－ 信用金庫の経費率は低下傾向 －

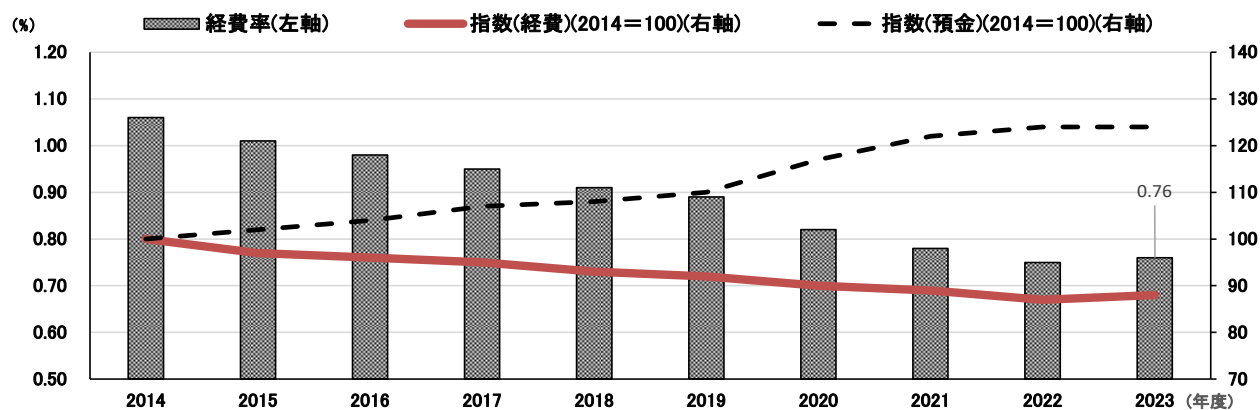
## ポイント

- 2023年度の信用金庫の経費率は、前期比0.01ポイント上昇の0.76%となった。過去10年間に於ける推移をみると、経費率は低下傾向にある。
- 他業態比較では、信用金庫の経費率は都市銀行、地方銀行より高い水準で推移している。
- 信用金庫別の経費率では、1.00%超の信用金庫数が大きく減少している点が特徴的である。また、0.60%以下の信用金庫数も増加傾向にあるなど、総じて低下している状況である。

## 1. 経費率（全国）の状況

2023年度の全国信用金庫の経費率(経費/(預金積金+譲渡性預金))は、物件費の増加を主因に前期比0.01ポイント上昇の0.76%となった。過去10年間に於ける推移をみると、経費率は低下傾向にある。経費額および預金残高について2014年度を100として指数化すると、預金増加の寄与度の方が高く、経費率の低下により大きく寄与している(図表1)。

(図表1) 経費率(全国)の状況



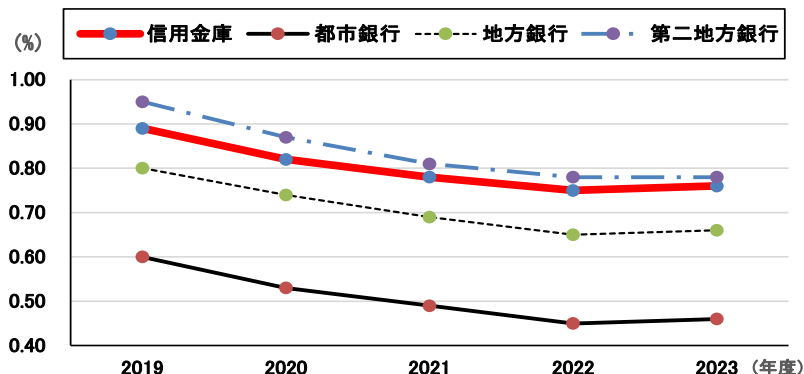
(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

## 2. 他業態との比較

近年5年間の経費率を他業態と比較してみると、信用金庫の経費率は、低下傾向にあるものの、都市銀行、地方銀行より高い水準で推移している。

また、第二地方銀行の経費率をやや下回り推移している(図表2)。

(図表2) 経費率(他業態)の状況



(備考) 1. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

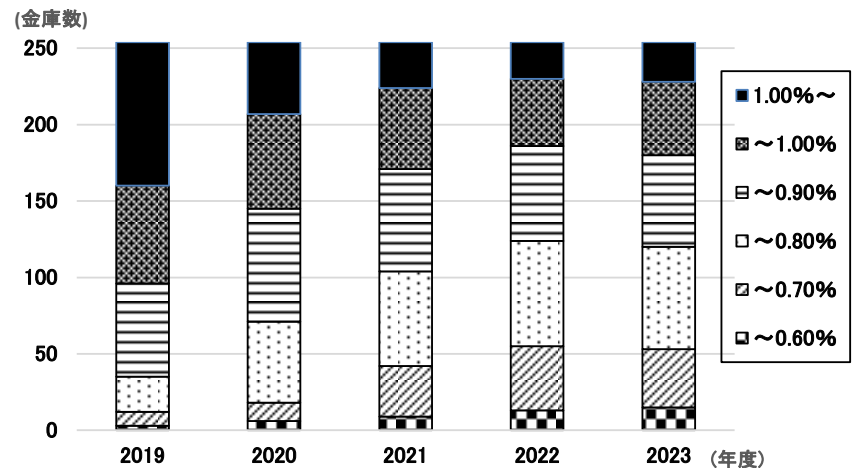
2. 他業態は全国銀行財務諸表分析より作成

### 3. 信用金庫別経費率の状況

次に信用金庫別に、近年5年間における各年度の経費率の推移を示す(図表3)。

経費率は低下傾向の動きがあり、1.00%超の信用金庫が大きく減少している点が特徴的である。また、0.60%以下の信用金庫も増加傾向にあるなど、総じて低下している状況である。

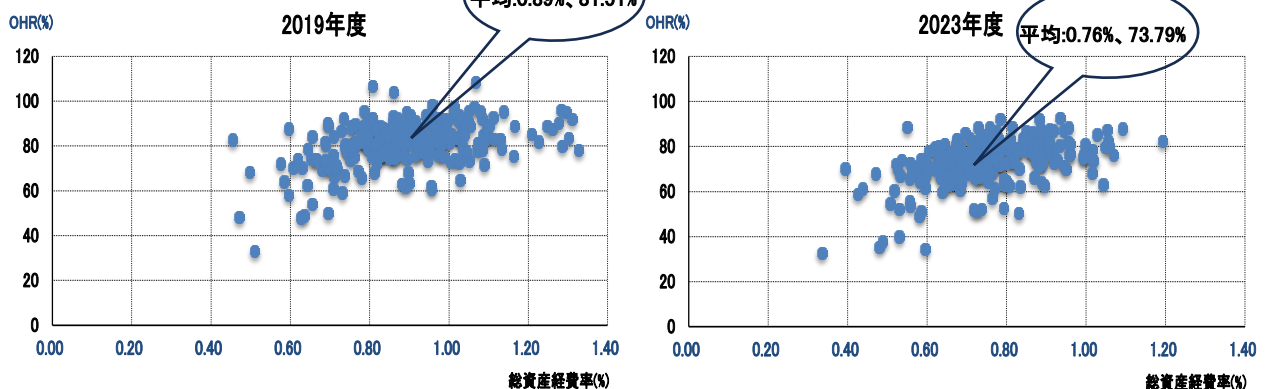
(図表3) 信用金庫経費率の状況



本稿では、経費効率をみる指標として、経費率(経費/預金積金+譲渡性預金)以外に、貸借対照表全体のボリューム対比である「総資産経費率」および損益対比である「OHR (Over Head Ratio: 経費/コア業務粗利益)」を用いて、2期比較(2019年度・2023年度)における個別信用金庫の状況を示す(図表4)。

平均的には、2019年度は単純平均で総資産経費率 0.89%、OHR 81.51%であったが、2023年度は総資産経費率 0.76%、OHR 73.79%まで低下するなど、総じて経費効率が高まっていることが窺える。

(図表4) 総資産経費率・OHRの状況



これまで全国信用金庫の経費率は低下傾向であったが、預金増加の寄与度の方が高く、経費率の低下により大きく寄与してきた。今後は、多くの信用金庫において、預金量が減少することが珍しくなくなることが見込まれるが、引続き経費率の低下を図るためには、預金獲得に向けた営業活動が効果的であると思料される。

以上

※信用金庫業界の各種データは、信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページの「信用金庫統計」(<https://www.scbri.jp/publication/toukei/>)に掲載されています。併せて、ご活用ください。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。